
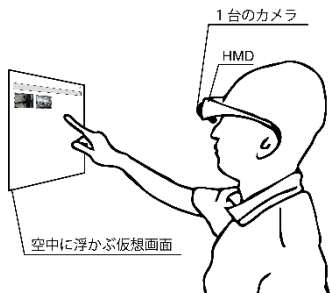
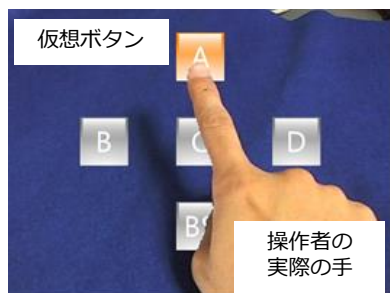


氏名・職名	豊浦 正広 准教授	
キーワード	拡張現実感、映像処理、 コンピュータグラフィックス	
ホームページ	http://www.vc.media.yamanashi.ac.jp/	
研究者から一言	<p>拡張現実感(AR)は、カメラで撮影する実世界映像の中に、CGで作った仮想物体を登場させる技術です。ヘッドマウントディスプレイ(HMD)はこれまで高価でしたが、安価なコンシューマデバイスが発売され始め、エンターテイメント以外への応用も広がっています。</p> <p>映像処理では、固定カメラ映像の効率的な鑑賞を目指しています。街中のどこにでも監視カメラがありますが、そのすべてを見て確かめることはできません。映像中の注目すべき領域を設定したり、時間的な差分を解析することによって、映像のどの時間帯を見るべきかを可視化します。</p>	

拡張現実感・映像処理の研究例



1台のカメラでのクリック動作検出

(特願2013-179269)

映像中の個別対象の活動度可視化

(特願2013-173053)

片眼失明・弱視患者に立体感を与える片眼鏡

(特願2011-185700)



カメラで獲得される画像(右カメラ)



ディスプレイに提示される映像



箸からの距離に応じて
焦点(ぼけ)が強調される

最も近くに位置する
箸には焦点(ぼけ)なし

拡張現実感・映像処理のご相談をお待ちします

新規開拓分野への拡張現実感

ロボット誘導・制御のためにARマーカを使いたい、
医療分野での拡張現実感の応用を検討している など
(ほか、下記の“適用できる製品・分野のイメージ”をご参照ください)

過酷な環境下での拡張現実感利用

カメラ移動：映像のぼけ・ぶれ，低フレームレート，映像の無線伝送 など
光源環境：明るい屋外，暗い夜間の利用，ディスプレイモニタでの表示 など
ハードウェアの制限：携帯端末，低解像度カメラや赤外線カメラ など

映像解析に関する技術相談

既存の利用方法とこれからの技術発展の可能性
映像内活動度可視化の利用上の制約や得意・不得意な分野
大量の映像を解析するために必要な技術，映像分野の未解決問題 など

… その他，何でもお気軽にご相談ください

適用できる製品・分野のイメージ

観光	防災・災害救助	広告・出版・印刷
医療	情報可視化	ゲーム・携帯コンテンツ
住宅見学	育児・保育	設計・デザイン
仮想博物館	技術指導	コンピュータアート
教育	運転支援	ロボット誘導・制御
工場見学	農業・園芸	プレゼンテーション
立体映像提示	蔵書管理	ウェブコンテンツ
美容・服飾	商品販売	生産ライン制御
イベント誘導	スポーツ観戦	など

シーズについてのお問合せ、ご相談先
E-mail: renkei-as@yamanashi.ac.jp
Tel: 055-220-8758 Fax: 055-220-8757

